

令和3年9月 学校長だより 高千穂高校

令和3年9月17日

「努力は、定期預金。忘れた頃に、利息がついて返ってくる。

怠慢は、クレジットカード。忘れた頃に、ツケが回ってくる。」

校長 佐伯 浩 美

‘悪いのはウイルスであって、感染した人ではない。’ 変異していくコロナウイルスの蔓延状況を見て延期にしなければならない行事が度々ある。困ったもんだ。ワクチン接種で収束の期待は高まるが、いつのことやら。感染防止に配慮した日常生活が、まだまだ続きそうだ。

さて、6日間延期にした2学期始業式を8月30日、放送室から映像と共に全学級へ配信で行った。

・毎朝の検温 **・マスク着用** **・消毒** **・手洗い** **・うがい** の自己防衛。校内では、**・マスクを外している時は、会話をしない。****・食事は、皆同じ方向を向いて。****・窓を開けて空気の流れをつくる。****・部活動の更衣時の注意等** 感染力が強いデルタ株を含めたウイルスへの感染の防止徹底を呼びかけた。

本年度の神舞祭は、生徒の体力面を考慮し、体育の部・文化の部を分けて開催する計画であった。当初6月中旬に予定していた体育の部は、県高校総体延期で例年通り文化の部と同じ連日開催の9月3・4日に決めていた。しかし、これまた延期で9・10日に実施。夏休み延期の期間は、登校禁止であったが、定められた時間のなかで、最高のものを目指し、最大の努力をし、やり遂げ、つくりあげた。大成功であった。生徒会や実行委員会・団長やリーダーをはじめとする生徒達、陰でサポートする教職員、環境整備や広報活動・応援観戦に会場いただいた保護者に心から御礼を言いたい。生徒の発想・真摯な取組・本番での大活躍に感動した。しろやま支援学校高千穂校6名の生徒の懸命な発表、全力疾走も素晴らしかった。目頭が熱くなった。

16日から就職試験が始まった。郡内県内はもとより、九州・関西・中京・関東など全国から昨年並みの815社の求人はあるが、就職希望は15名である。14日高千穂ライオンズクラブから4名の方においていただき、本番さながらの模擬面接を実施した。模擬面接官からの激励を込めた温かいご指導を受け、自信をつけ、今年も全員合格間違いなしであろう。町内の業者さんも校長室に来ていただき「仕事はあるが、人がいない。将来の担い手を育てたい。」と話しをされる。‘地元の子が地元の高校へ進学し、地元の企業に就職する’そんな生徒も育てたい。地域貢献、地域活性化も県立高校の仕事の1つである。

スポーツでは、ある時期突然記録が伸びることがある。それまでの努力してきた結果が忘れた頃にでてくる。サボってもすぐに記録は落ちないが、忘れた頃に後悔する。頑張ってもなかなか報われない時や自信を失いかけた時こそ「もう一息」頑張ろう。

色々な生徒に出会ったが、伸びる生徒は、第1に素直であった。第2に人の話に耳を傾けた。第3に謙虚であった。そして感謝の気持ちを持っていた。西臼杵には、こんな子が多くいるように思う。

伸びしろを残して入学してきた生徒が、大きく伸びることも、高千穂高校の魅力の1つである。